

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム金矢 南町ユニット

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500304		
法人名	社会福祉法人 宇津野会		
事業所名	グループホーム金矢 南町ユニット		
所在地	〒025-0304 花巻市湯本19-380-1		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年11月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に寄り添い過ごしやすい環境作りをしております。理念・目標を職員全員で唱和し共有化に努めております。また、外出や一部面会制限されるなか、少しでも充実した生活を送れるよう、お花見や花巻祭り見物のバスハイクを実施し、季節にあった行事・レク活動等の取り組みも行ってまいります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月18日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、花巻温泉郷や広域公園が近くにある静かな田園地帯にあって、和風建築による「杉の木を、ふんだんに使った」平屋の2ユニットのグループホームとして開設されている。隣には同法人の運営するケアホームがあり、更に車で5分圏内に同法人が運営するケアホーム、デイサービスセンター、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所があり、同市の中部圏域の高齢者福祉の拠点としての機能を発揮している。「共に歩み、共に支え、共に暮らす」という理念の実現に向け、「笑顔、気づき、報連相」の徹底を理念実現のための年間目標と定め、職員一丸となって入居者の支援に取り組んでいる。家族向け発行の「グループホーム金矢便り」に加え、利用者一人一人の日常生活の写真や様子を定期的に提供しており、ホームでの生活の様子が分かり家族の安心につながると高い評価を得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、目標を共有・実践できるよう、毎日、申し送り時に職員で唱和している。	職員全員で検討して定めた、「ともに歩み、ともに支え、ともに暮らす」という理念を実現するため、常に「笑顔、気づき、報連相」の徹底を年間目標に定め、職員一丸となって入居者支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域との交流はできていない。	行政区の一員として地域活動に参加し、事業所の広報紙を地区に回覧して事業所への理解と啓発に努めている。近くにある障がい者通所事業所との交流や地域の住民による地域協力員の協力を得た避難訓練等は、コロナ禍に入ってから、感染防止のため持っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様などには、認知症の理解や支援相談を随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度書面にて報告し、意見や問い合わせは共有し、サービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、昨年の5月が対面での開催の最後となり、現在も書面による開催となっている。意見や提言がなく運営のための意見等を頂く場にはなっていない状況にある。	地域協力員を中心とする委員会となっているが、日頃からの協力関係をより強化していくため、行政区長や消防署職員等を委員に委嘱することを検討するとともに、コロナ禍の現状に照らし、事業所以外の地区公民館等での開催も検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問い合わせがあった時に、随時対応している。	市介護保険担当課及び市福祉事務所とは、介護支援専門員が窓口となり必要な時に連絡が取り合え電話や直接訪問で相談、確認できる良好な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人として、身体拘束廃止に関する指針を定め年3回の研修を実施している。毎月の職員会議で支援を振り返り、スピーチロックや不適切の声がけがなかった話し合い、日常の支援場面で気になった点については、その都度、管理者、介護支援専門員が助言している。1人の入居者が転倒防止のためのセンサーを使用している。夜間は防犯上の理由から玄関を施錠している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で研修を行ったり、資料を回覧したり理解を深め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強を行ったり資料を回覧したりして理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、来所して頂き重要事項説明書等で契約内容を説明し同意を頂いている。確認等は、その都度対応し理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族様の意見を取り入れるよう努めています。また、運営推進会議等で表せる機会を設け、職員間で情報共有しその後の運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定期的に職員会議を行い、職員から意見や要望等話しやすい環境作りをしている。	毎月、南北のユニット合同で行う職員会議で、支援方法の変更や手順の見直しなどが提案され、職員の思いを汲み取った事業所運営に努めている。管理者と介護支援専門員は、職員とのコミュニケーションの機会を多く取ることを意識して、悩みや思いの把握と吸い上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況をできるだけ把握し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を目指しながら、環境を整え、資料などを回覧し自己啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の隣接施設の他事業所と交流する機会を設けている。オンライン研修等にも一緒に参加し、サービス向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、訪問調査、面談を行っている。居室担当が中心となり情報をもとに信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、本人や家族からの要望等を傾聴し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時に、本人と家族が必要な支援等を確認しサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係の構築に努め、利用者の出来ることを維持できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りで行事などの様子をお知らせしたり、面会時や電話連絡などで関りを持ちながら、関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部面会緩和しオンライン面会等も活用し、関係が途切れないように支援に努めている。	コロナ禍のため面会を控えた時期もあり、親族以外の馴染みの方が来所されることは稀である。訪問理容師が生活の場での新たな外部の方となっている。全ての入居者がそれぞれの思い出を持つ花巻祭りが、4年ぶりに通常開催され山車の見学ドライブに出かけ、入居者から好評を得ている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやイスの配置等を工夫し良い関係を保てるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、問い合わせがあった時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の生活歴の聞き取りと日常の会話の中で、利用者の意向を聞きとるよう努め、居室担当を中心に職員間で情報共有している。	生活歴や日々の関わりの中での会話から引き出されたものや表情、反応を支援記録等に残し、職員間で共有して支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、生活歴を調査し、その後も家族から知り得た情報は共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子観察を行い、毎日の申し送り時に現状・変化があったことを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に、職員会議で話し合い意見交換し本人と家族の意向を取り入れられるよう心掛け作成している。	入居時に家族から生活歴を聞き取り、必要に応じ前利用事業所からの情報収集も行い、本人に関する情報を職員全員で共有している。その上で介護計画は、居室担当者と介護支援専門員とで原案を作成し、本人、家族の了承を得て決定し職員全員で共有している。毎月のモニタリングを経て計画と齟齬がなければ、6ヵ月毎の見直しとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、日誌やケースに入力し職員間で情報共有している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の個々の状況に対応できるよう職員間で話し合いながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との関りが持ちづらくなっている中で、地元の理容には定期的に来所して頂き利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、入居前からのかかりつけ医との関係を維持し、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居後も大半が、家族の付き添いで従前のかかりつけ医を受診している。通院時には、生活状況に関する情報提供記録を事業所として作成し、かかりつけ医に渡し、通院後は家族から聞き取った診察結果や服薬変更等を記録に残し、職員間で共有している。職員が付き添うのは、両ユニット合わせて5人程である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、日常の様子や体調変化に関する情報を家族とも共有し受診時に適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や医療関係者等と連携を図り、情報交換や相談に努め、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。入居時に家族には説明し同意を頂き、施設での生活が難しくなってきた場合には、他施設の情報を提供し対応している。	利用契約時、施設の設備構造に加え協力医の確保が難しいことを説明し、看取りまでは行えないことを伝え了承をいただいている。重度化が顕著になった場合には、次の生活の場についての情報提供を行っている。次の生活の場が見つかるまでは、ここでの生活が続くため、重度化した入居者に対する支援についても話し合っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で急変や事故発生時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民に協力していただきながら、避難訓練実施している。	コロナ禍であり事業所内の職員のみでの夜間想定 の避難訓練1回、通常の避難訓練を1回実施した。 隣接する同法人のケアホームとの合同訓練は感染症 予防の観点から見送った。地域の6名の方には、地 域協力員として協力いただいている。缶詰、レトル ト、おむつ等の備蓄を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや丁寧な対応・言葉かけできるよう心掛けている。	広報紙への写真の掲載については、入居時説明し同意を得ている。全居室にトイレと洗面所が付いており、排泄は自室で行う入居者が多くプライバシーが確保されている。日常の声かけに関する職員相互の牽制を行っているが、今後、基本となる接遇研修の開催も検討したいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表したり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者のペースで過ごせるよう、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室担当を中心に身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった食材や施設内で収穫した野菜を取り入れながら、食事の下ごしらえ・配膳下膳等、出来ることは一緒に行っている。	南北のユニットが2ヵ月交代で季節感が感じられる献立を考え、地元の業者に食材を発注し、専任の調理員と職員が交替で調理している。調理の下ごしらえ、配膳、下膳など入居者の持てる力に応じ、一緒に行う場面も多い。自分たちが育てた野菜を食材に使うこともあり、入居者の楽しみの一つになっている。誕生会のケーキの他、年越しそば、おせち料理と季節に応じて家庭での料理に近い提供となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はそれぞれ摂取できる量を提供している。水分は食事の前後やおやつ時に提供し、こまめに声掛け補給できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助を行い口腔内を清潔にできるようにケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう定時誘導を行ったり、声掛けをしている。	入居者の半分が自立している。半分がリハパンツ、パットを使用している。入居後に、排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握して支援に役立てている。定時誘導は、10時半、昼食後、夕食後のみとし、声掛けを必要とする入居者には、表情や仕草をみながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し職員が排便状況を把握できるよう努めている。朝食時にヨーグルトを提供したり水分補給で工夫し毎日運動するよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、決まっているが入浴を楽しめるよう工夫し声掛けを行っている。希望に沿うよう支援している。	原則、月曜日と木曜日の週2回、午前中を入浴時間帯に設定している。大浴場は、ゆったり3人は入れる広さがあり、気の合う入居者同士と一緒に入れるように調整している。段差の移動が困難な方は、中間浴の浴槽を利用している。通院や体調の関係で入れなかった場合は、別の日にずらしている。季節に応じて、柚子湯、菖蒲湯も用意している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活できるよう、安心して気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の説明書ファイルに綴り、職員全員が把握できる状態にしている。必要時、家族や主治医と相談しながら変化に対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を感じる機会ができるレクや行事や食事作りなど活動している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出する機会は減っているが範囲でバスツアーや花や野菜を育てたりしている。	コロナ禍のため外出する機会が少なくなり、近隣へのドライブ程度の状態が続いている。事業所が自然豊かなところにあるため、人に危害を加える動物の出現が多く、外に出る機会そのものが制限されている。日常的な外出に代わり、玄関周囲のプランターへの夏野菜苗の定植、水やり、草取り、収穫を行っている。	人間に危害を加える動物の出現も危惧されますが、四季の変化を体感できるドライブに加え、外気浴の必要性に照らし、短時間でも安全にホームの外で過ごせる方法について具体化されることが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、お小遣いをお預かりしている。コロナ禍もあり、欲しいものがある時は代行し買い物したり、混雑しない時間帯に外出支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や利用者の希望時に対応している。オンライン面会なども活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう清潔保持、室温調整を行っている。季節を感じられるようレクリエーションで壁画作品を作成し掲示している。	南北のユニットの食堂スペースの中間に、入居者が腰を下ろして座ったり、足を延ばしてゆったりできる広い畳スペースがある。大きな窓から外の風景が見ることができ、季節の変化を感じたり、ゆったりくつろいだりするスペースが確保されている。壁には入居者の作品が掲示されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は、座席を決めず自由に他利用者とは交流できるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者には、馴染みの物をご持参していただき安心して生活できるよう努めている。状態に応じてその都度、対応している。	居室はベッド、クローゼットが備え付けとなっている。トイレと洗面所が全室についており、プライバシーが保持されている。入居者が趣味でとった写真を掲示したり、テーブルを置き小物を配置したり、テレビを置いたり、居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう見守りながら、安心・安全に行動ができるよう動線には物を置かない様配慮し、環境を整備に努めている。		